

第4回 旭市総合戦略懇談会 会議内容

日時：平成27年11月20日（金）13：30～16：00

場所：旭市役所

○出席者

《委員》 14名出席 3名欠席

飯島 隆太 委員	出	石上 弥耶 委員	出	石毛 みさと 委員	出
石見 千賀子 委員	出	伊知地 正樹委員	出	大越 俊克 委員	出
向後 嗣一 委員	出	小関 友紀子 委員	出	椎名 正剛 委員	出
嶋田 明範 委員	欠	城之内 和義 委員	出	田邊 波津枝 委員	出
林 一美 委員	欠	林 英光 委員	出	原 伸太郎 委員	出
土川 峰弘 委員	欠	諸持 耕太郎 委員	出		

《旭市》

旭市副市長、秘書広報課長、企画政策課長等（事務局） 計8名

○資料

- ・次第
- ・旭市総合戦略（素案）

○会議内容

1. 開会

林座長より挨拶

2. あいさつ ※市長が他公務により途中から参加のため、副市長よりあいさつ

【副市長よりあいさつ（要旨）】

みなさん、こんにちは。大変お世話になっております。副市長の加瀬でございます。

今、進行のほうからお話がありましたが、市長は、旭市総合戦略懇談会はすべて参加したい、ということで第3回までやってきましたが、本日は、明日、旭市で開催されます関東高等学校駅伝競走大会の開会行事へ行っております。したがって、行事が終わり次第かけつけますので、よろしくお願いします。

5月に始まった懇談会も4回目を迎えました。これまで委員会の皆様には貴重なご意見いただきました。そして、前回までのご意見を踏まえまして、今日、提案いたします旭市総合戦略の素案がほぼできあがりしました。これは市役所全課をあげて、ここまでとりまとめたものでございます。中身につきまして、率直なご意見を頂けたらと思っております。

まずは戦略策定を終えまして、旭市の継続するまちづくり「ずっと住みたいまち旭」「大切なまち旭」を進めていきたいと考えています。よろしくお願いします。

3. 議題

（1）旭市総合戦略（素案）について

●事務局

それでは旭市総合戦略素案について説明させていただきます。

初めに旭市総合戦略の策定経過についてご説明いたします。

7月24日の第3回懇談会にて確認いただきました骨子案に基づき、市役所内部関係各課との検討、調整を行い、また市民アンケートや地区懇談会等の意見を踏まえまして作成したものです。

参考までに、地区懇談会での総合戦略に対する主な意見についてですが、地域には様々な伝統文化や自然があり、これらを守ることの大切さ、高齢者が増えていることから、生きがいづくり対策などが多く挙げられました。

では、総合戦略素案について、ご説明いたします。

【旭市総合戦略（素案）に基づき、事務局が説明】

○委員

資料はよくできていると思いますが、実際にプロジェクト、目標について、我々が具体的に何をやるのかといったときに、私であれば農業、「地産振興プロジェクト」がありますが、例えば「こだわり旭ブランド創出支援事業」など、支援の内容を教えてくださいたいです。資金援助なのか、開発するプロジェクトを作る時から支援していただけるのか、具体的にやろうというときにどのような支援があるの

かわかりにくいです。まだその段階ではないのかと思いますが、実際にやっていくには、具体的に進めていかななくてはなりません。どの程度の支援があるのか教えてください。

●事務局

支援の内容ということでありますけれども、総合戦略においては、主な事業について掲載させていただいております。詳細には、こちらには記載しないのですが、できるだけ、ある程度内容がわかるように作っていきたいと考えております。

「こだわり旭ブランド創出支援事業」については、市内の農水産業者が、こだわりを持って生産、付加価値をつけることで、注目される農産物の開発、特需・販路の拡大を支援するということで、補助期間が3年間、前年度事業費の1／2、限度額が50万円というのが支援の内容です。ただ、このような詳細までを総合戦略に掲載はできませんが、内容としてはこういったところです。

○委員

まだその段階ではないとわかっているのですが、実際にブランドとして旭市から出していくには、何をブランド化させるのか、それに誰が携わるのかなどを考える必要があります。私が考えていたのは、花を使って品種改良したものをブランド化していくなどがあるのですが、それに携わるJAだったり、支援だったり、大学との連携をしたり、そういったことをつくっていくことが、本当のブランドづくりということだと思うのです。

ブランドとは物語が必要で、旭市全体が携わってブランドをつくっていくという、そこまでの支援、連携をやっていただきたいと思います。それをネットで販売することや海外への販売なども視野に入れながらプロジェクトを考えていければいいと思います。

【休憩】

【市長、入室】14：50～

【市長よりあいさつ（要旨）】

皆さん、ご苦労さまでございます。第4回目の総合戦略懇談会ということで、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

皆さん方のこれまでの懇談会のご意見をいただきながら、企画政策課が中心になって、総合戦略の素案ができあがったところでございます。これから、この総合戦略の計画に沿って、まちづくりを進めていくことになります。これまでの皆さん方にご尽力いただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

人口減少時代ということで、大変に緊張感を持って、行政もまちづくりを運営していかなければならない時代になっております。そういった中で、この総合戦略の計画が指針となっていかなければならないと考えております。今までの皆様方のご尽力に心から敬意を重ねて申し上げまして、ご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

○委員

商工業の立場として、45ページの「既存商店街の活性化のため、プレミアム付共通商品券発行事業や

商店街が実施するイベント事業などへの支援」ということですが、今回は補助金がついているということで、商売をしている側では全く負担なくやっていただいているのですが、通常のプレミアム付き商品券ですとだいたい商売している人へ３％の負担がきます。例えばお客さんとのやりとりで、限界まで引かれる、そういった売掛金をさらにプレミアム付き商品券で支払っていただくとすると、さらに３％引かれるということになります。うちは絶対断らない方針でやっていまして、肥料・農薬はこのへんは激戦区で、低利で儲けなくやらなければならない、そういうなかでその３％が非常に痛いというところがありますので、そういったところにも配慮していただければと思います。

資料は全体的によくできていて、確かに書類を提出する意味では良いと思いますが、ひとつひとつ具体的に、本当に市の活性化のために活かされるのか、具体的にどのようにやれば本当に支援となるのか、ということをもう一度詳細に詰めていただかないと、ただの書類になってしまうのではないかと思います。

例えば、４４ページのＫＰＩの目標値で、認定農業者数を８４５人から８５０人に増やすだとか、農業産出額を４２４億から４４０億にするとかありますが、どうやればこんなに増えるのかなと感じています。現状としては、農家をおやめになる方もいて、うちで機械の販売の委託を受けたりしている現状で、もっと具体的な支援や方策がなければ、この書類通りの目標値はありえないと思いながら聞いておりました。実際これをやるにはどうしたらいいかというところを見込んだ政策を組み立てていただければ、本当に素晴らしい旭市というものができあがるのではないかと、思います。

私は、婚活推進協議会にも入っていきまして、婚活事業なども企画して１２月にやるのですけれども、市に１人でも多くの方に残ってもらいたいという思いを込めて、参画しています。

全体的にもう少し具体的に突っ込んだものをやっていただければと思っています。

●林座長

もうひとつ、全体としての戦略のコンセプトが重要かなと思います。例えば、将来都市像として「郷土愛からつなぐ未来 ず〜っと大好きなまち旭」とありますが、ちょっと弱いのではないかと感じます。これが強いインパクトがないといけないと思うのです。気持ちを誘導することが大切だと思います。

○委員

子ども目線からなのですが、先日、産業まつりに子どもが参加してカードをいただってきたのですが、これを見ると旭市がすぐわかるようになっていて、あさピーや魚など見ながら、子どもたちと話をしながら、自然豊かですごく良いところなので、このまま子どもたちがいてくれたらいいなと思いました。

５８ページで子どもに関する支援がいろいろありますが、育英資金給付事業という高校、大学とか書いてあるのですが、大学は県内にほとんどないので、県外へ行ってしまうお子さんがたくさんいると思います。例えば支援の条件として、大学を卒業したら旭市に戻ってこられるようなシステムがあったらいいのではないかと感じました。卒業後には「地元企業に何名入れます」などの支援をしていったらいいのではないかと感じました。そううまくはいかないのかもしれませんが、旭市に若い人が戻ってくるならそのような事業を起こしてもいいのではないかと感じました。

○委員

仕事柄、成田空港を拠点のひとつにしていまして、成田空港に行くことが多いのですが、まだ資料を読み込んでないのですが、この資料に成田空港に関する項目はあるのでしょうか。

総合戦略は、北総地域、東総地域の各市町村でも策定していますが、近辺で成田空港を活用した施策として、例えば、銚子市ですと、漁協の市場の直売所を成田空港内に作って海外にアピールしようとか、成田市では、市がやっている市場があるのですが、そこから海外向けに農水産物を輸出するというようなことについて補助金を使ってやっています。取り扱うものは成田市のものだけじゃないのですが、そういったものを海外にアピールして、付加価値を高めて、ブランド化していくという市町村もありますので、旭市は農水産物トップクラスということを活用するために、成田空港という大きな輸出の拠点を活用した取り組みを入れてもよかったのではないかと思います。

このようなことは、1からやることは大変なんでしょうけれども、他市町村と一緒にやるというかたちでもよいのではないかと思います。また、成田空港という言葉が入っているのもこの地域らしいかなと思います。

○委員

質問ですが、53ページの「病気予防対策の充実」のKPIで、「市の死亡原因のうち悪性新生物による死亡数」ですが、こちらの「市の」という部分の定義ですが、「旭市民」のことでしょうか、それとも「旭市で亡くなった方」ということでしょうか。

●事務局

市の検診をやっていますので、「旭市民」ということです。

○委員

旭市民の検診率を上げるためのKPIだと思うのですが、予防の観点では検診を早く受けていただいて、早く発見していただくのは非常に重要なことです。しかし、悪性新生物は死亡数としては多いのですが、他の脳卒中やいろいろな病気がありますので、検診事業というものからKPIを悪性新生物に絞っていいのか、というところが疑問に思いました。

旭中央病院は、先進医療をやっており、がん拠点病院でもありまして、がんの治療をするために旭市へ転入される方もいらっしゃると思いますので、この死亡数をKPIにするということが、少し疑問に感じるころでした。

●事務局

こちらについては、確認を取りたいと思います。検診の受診率をあげるということもあり、そういったことに至らないようにというのがあります。悪性新生物は市民の死因第1位ということもあったため設定させていただきましたが、この辺をもう一回確認させていただきたいと思います。

○委員

もしKPIとするのであれば、今おっしゃった受診率の向上や、受診年齢をもう少し早い段階で受けていただくなども、指標になりうるのかなと思います。

○委員

先ほどの城之内さんの成田空港の活用というお話がありましたが、旭市のある職員さんと、旭市の農産物を輸出できるルートはないだろうかということで、相談をしたことがあります。

いろいろな企業に相談したのですが、なかなかルートが難しくて、新潟で海を挟んで輸出をしているという企業に聞いたのですが、やはり農家が6次産業化や輸出というのは、自分たちだけでは難しい部分があります。このため、市でルートとして、お手伝いしていただけるようなことがあれば、旭の産物を海外に向けて、より出しやすい状況になるのではないかと思います。

また、農産物だけではなく、いろいろなものの窓口となると思いますので、ぜひお願いしたいです。そういうものがあれば、雇用も盛んになって人が集まり、循環するのではないかと思います。

●林座長

旭市と成田空港とは何かあったときに連携みたいなことがあるという話を聞いたことがあるのですが。具体的には何のことでしょうか。

●市長

ドクターヘリのことだと思います。

●林座長

成田と旭市は医療でもそういう繋がりがあるということですね。

●市長

成田空港との関係、関連については、おととい県の副知事、関連部長など懇談会を行いまして、今、県で観光ルートの試行運転をやっているのですが、今は佐原の方へ行くルートなので、旭市としては、成田から県南、東総地区を通して銚子へ行く観光ルート、匝瑳と旭を通していくルートの試行運転をやって欲しいとお願いしたところです。

そういった面で、成田空港の利用については、旭市の観光の振興というところで、成田空港との関連性をもう少し加えられればいいと思っているところです。

県とはいろいろな面で観光ルートの検討をしまして、旭市にはサーフィンなどたくさんの方が来るので誘導するとか、環境の整備だとか、そういった点で、広域でやっているわけです。しかし、現実問題としてなかなか難しいところがありまして、具体的には、今進めているところですが、総合戦略には書けない部分が多くありますので、その辺もご理解いただければと思っています。今後も、成田空港と旭市、匝瑳市、銚子市との連携を考えていきたいと思っています。

●林座長

私が今住んでいる愛知県にも海洋リゾート、アウトレット、温泉があり、そこへ大阪からバスが来ます。また、長島のほうにリゾートがあつて、イルミネーションもやっているのですが、そこも行って、ぐるっとまわって大阪へ帰っていきます。

このように循環でやらなければ旭もなかなか難しいところがあるかと思いますので、今は単独でやる時代じゃなくて、ネットワークが大切であり共同でやっていくことが必要です。

○委員

26ページの将来都市像として「郷土愛からつなぐ未来 ず〜っと大好きなまち旭」という、いいスローガンが出ていますが、旭市というものを、できるだけ短い文章でぱっと、どこにでも見られるよう

にしたら良いと思います。

ずっと15年20年前から、旭市の国道にある豚の絵と果物と花の絵、「花と肉と野菜のまち」ですか、それがもう消えかかって見えないので、国道から大きな看板に、あさピーの絵など入れて、なによりも短い文章で、スローガンを入れて表示したらいいと思います。せっかく大きな看板があるのですから、もう一度活用できたらPRできると思いました。

○委員

将来都市像の話が出たので、お話しさせていただきたいのですが、今、全国で一斉に総合戦略を策定しており、うっかりしているとみんな同じものができかねない状況の中で、旭市らしさを出したいと思っています。それには、旭市の特色である中央病院であったり、農業、食であったり、あと、この計画でいうと37ページの「旭市生涯活躍のまち構想」などが肝になるのではないかと思います。この辺のニュアンスを将来都市像の中に入れた方がいいのではないかと思います。

○委員

54ページの「スポーツの振興」で、KPIの「スポーツ大会の年間参加者数」の基準値ですが、こういうもので数があがってきているのか、それを踏まえての目標値だと思いますが、詳細を教えてください。同じように、55ページの「スポーツ施設の年間利用者数」についてもお願いします。

●事務局

こちらの基準値は、担当課からあげてもらった数値ですので、詳細については今即答ができなくて申し訳ないのですが、確認をさせていただきます。

○委員

54ページのKPI、スポーツ大会の年間参加者数を5年後で12,500人、これが多いのか少ないのかわからないです。

私は運動関係をやっているものですから、このページの内容を見ると、どこまでやったものの整理なのかとしかとらえられないので、さみしいなと思いました。

スポーツは二面性があり、一つは保険と一緒に健康にかかわる。スポーツの機会を市民に増やして、参加してもらって、そうすれば病院にかからず、自分の健康を自分で作ることができます。

多くの人が魅力あるスポーツで参加してもらえればいいわけですが、どういうふうにして人数を増やすかというところが見えないです。指標は一つでいいのですが、「観るスポーツ」、「するスポーツ」、「支えるスポーツ」と言われます。今後、実際に競技に参加する参加者数、応援してくれる観戦者数、支えるという部分のボランティア人数が把握できると、トータルでこれだけの人が関わって盛り上げてきている数字がより見えてくると思います。

市の活性化につなげるためには、イベントの紹介は広報などでやっていると思いますが、さらに人を呼ぶという意味で、旭市は海もあれば、スポーツ施設もあるので、いろいろな施設をうまく使って、1年間の中で、いろいろな関係団体を呼ぶことが重要だと思います。宿泊施設が少ないと聞いていますが、年間を通じていくつかの団体が来て、組合の方々が相談されて、その団体を宿泊させ、旭の食材をPRとして子どもたちやスポーツする方々に提供するなど、他の団体とスポーツ関係とつながって、という関係があるといいのかなと思います。

道の駅ができて、施設内には市内の観光PRのパンフレットがあり、いくつかの旭市の名所・旧跡、ルートが紹介してありました。しかし、ほとんどの方は自家用車で興味ある人は行くかも知れませんが、車ですぐ行けない人もいますので、例えば、市の循環バスなどで、何時と何時はAコースを案内できます、というようなものを道の駅を発着にしてやるといいのかなと思います。

それからJRの駅については、駅を降りたらすぐに旭市を紹介する大きな看板があつて、そこに行ってみようとなるような看板が必要かなと思います。

せっかく道の駅がスタートしましたから、さらに盛り上がるような手を打ったらいいと思います。

○委員

道の駅ができて、大勢の人がみえて、旭の名物が販売されていて、とても活性化に寄与すると思います。

先ほどの話で成田から何か呼べないかということで、例えば、旭市には屏風ヶ浦、刑部岬があり、そこに港もあり、船に乗って屏風ヶ浦を見に行くこともできますし、もちろん銚子に行って見に行く方もいらっしゃると思います。そういった方を迎え入れるために、観光業者に、道の駅に寄っていただいたら補助を出すとか、また他市の観光名所にも寄っていただく、というようなことをやってみるといいのかなと思います。

KPIとして、道の駅に寄った観光バスの数を入れるなど、より市内だけでなく、市外からの人に旭市に来ていただいて、お金も落としていただける、というようなことを考えてもいいのかなと思いました。

30ページの「地産振興プロジェクト」で質問なのですが、主な事業内容で「創業者等への支援」がありますが、以前この懇談会で、産業競争力強化法の認定による認定支援事業計画というものがある、その認定を受けると、いろいろな政策の支援が受けられ、もっと市を超えたレベルで受けられるということがあるのですが、そういったことを踏まえて、書かれているのでしょうか。

●事務局

今後、飯島委員がおっしゃられた方向に進んでいくものですが、まだその窓口や体制ができていないということで、まず体制づくりをするということになります。先にはそういったかたちで支援を含めた取り組みをしていくということになります。

○委員

そういった認定を受けると、創業する人も非常に勢いがつくので、ぜひやって頂けたらと思います。

質問ですが、重点施策は、目標値が、数値目標とKPIと2つあるのですが、重点施策以外はKPIの1つしかないのはなぜでしょうか。

●事務局

まず、このプロジェクトの目標、例えば地産振興プロジェクトの数値目標ということで掲げてあります。

次に、KPIというのは、このあとの基本政策に設定してある、各施策の展開からのKPIということで、その中の3つ程度をここに記載しています。

○委員

29ページの数値目標というところで、開設法人の年間件数ということで、これは法人に限定されていると思いますが、法人に限らず、個人事業を開設される方もいらっしゃるので、広く見ていただいて、これを数値目標やKPIに入れるか、検討していただければと思います。

もう1点、45ページの「商工業の振興」で、私は商店街で衣料品店を営んでおりますが、事業内容の「空き店舗活用事業」というところで、空き店舗の利用と書かれています。しかし、商店街には、すべて商業店舗というわけではなく、民家とか空き家も含めて存在しているかと思います。こういったものも、今後商業施設になりうると思います。今、古民家カフェなども流行っております。商業施設に限ってまちの活性化にということではなく、もっと広く捉えて、古民家も活用して、ゾーニングといいですか、商業地域の中であれば、活用を手伝っていきますというようにすれば、よりまちの景観にもいいと思います。

○委員

先ほど屏風ヶ浦の話が出ましたが、ちょうど今日の夕方の情報で、屏風ヶ浦が天然記念物になるということで、これも活用できるのではないかと、ということがあります。

別件で、64ページで「学校教育の充実」の中で、小学校15校、中学校5校とありますが、その他にも県立の高校が2校、農業高校と工業高校があると思います。特色のある産業高校ですので、こちらにも活用するというのはいないのでしょうか。市のほうから県の施設にモーションをかけづらいというのがあると思いますが、いかがでしょうか。

●事務局

高校の活用というお話がありましたが、関連施策としては資料に「旭市生涯活躍のまち構想」というものがありまして、39ページ「③体験エリア」の部分で、「旭農業高校と連携した農業人材育成等」ということで、こちらで連携を模索しているところです。

○委員

高校のことで言ったのは、9月に地方創生の石破大臣が千葉市内で講演されまして、総合戦略に触れたのですけれども、各市町村でやっている中で、研究機関や教育機関との連携・参加があるけれど、なかなか研究機関や大学がないまちも多いので、その中で高校生も積極的に参加するような計画があれば、目を引いて注目されとおっしゃっていたので、高校生を活用した項目も入れると、注目度が高まるのではないかと思います。

○委員

旭市の農業高校で、すべての卒業生が農業関連の仕事に就くのではなく、農業をやらず全く違う方向へ進む生徒がすごく多くいると聞いています。この超高齢化の中で、人材不足、人材確保が難しくなっています。

例えば、山形などには3年間通うと介護福祉士の資格が取れるといった学校もありますが、農業高校の中に一部に、福祉の資格が取れるといったものがあるといいのではないのでしょうか。医療や福祉は人材が必要になってきているので、人材育成のために、農業に進まない生徒をとりこめるように、旭市でも検討してくれるといいなと思いました。

○委員

私は歯科医院で仕事をしています、歯科のほうでも歯科衛生士不足が話題になっておりまして、昨日も職業安定所に行ったのですが、苦戦しています。先生達に言うとう無理だといわれてしまうのですが、私たちの中では、せつかく近くに旭中央病院の看護師の育成学校があるのだから、歯科衛生士コースも入れてもらえばいいじゃないか、という話題も出たりしています。

医療のところで、看護師の学校に行くのに支援があるというページがあったと思いますが、医者になるためにはお金がかかるということがあると思いますが、看護師だけでなく、医者になるための支援があると、地元の優秀な子どもが残ってくれるのではないかなと思います。

○委員

いろいろな業界の方々とお付き合いをさせていただいているのですが、一番人口増加へ寄与するのは産業、雇用を固めなければということなのですけれども、例えば農業は人手不足、後継者不足とよく聞き、中央病院でも人が不足しているということを聞きます。

人が不足しているというところを、それぞれの事業体が工夫して埋めているわけですが、例えば農業でいえば、落花生などは70～80代の高齢化した農家が多く、畑がなくなっている中で、それを業者が機械を貸したりして、なんとか作ってもらえるよう支援しているというのもあります。

人が足りないといっている産業が、旭にたくさんあるので、その産業に人が入れるようなお手伝いできないのかなと思うところです。

それから、K P I の件で、いろいろとお金がらみでK P I を作られていますが、例えば、先ほど認定農業者数というところがありましたが、耕作地面積だとか、そういったところでもいいかと思います。

休耕田などは固定資産税が1.8倍になるなどという話もありました。将来的には、2倍、3倍に上がっていくのかなと思いました。経営母体がたくさんあるよりも、経営母体が少なくなっても産業従事者が多いというほうがいいのかと思います、検討いただけたらと思います。

話は変わりますが、日本の人口は減っていますが、世界の人口は増えているのですよね。実はいろいろな企業では、海外からの研修生を労働力として求めたりしていますが、そういったところも光を当てていいのかなと思います。

○委員

国からの支援の関係で、確か国土強靱化地域計画で全国の19市町村に選ばれているときいています。震災の復興と食糧基地、総合医療の拠点だったと思いますが、その辺の説明と総合戦略の関連を教えてくださいたいと思います。

●事務局

まず、国土強靱化地域計画について、全国で選ばれたという件ですが、選ばれたのは、国土強靱化の地域計画のモデル団体として選ばれました。そのため、選ばれたといっても、日本中の市町村に先がけて地域計画を作るということで、それに対する支援があったということです。

国土強靱化地域計画にも記してありますが、端的に申しますと、国土強靱化地域計画は「守りの施策」、災害時に何が何でも命を守ろうとする施策であります。一方で、総合戦略は、まちが生き残ると言いますか、旭市では目標人口を48,000人と設定しましたがけれども、それに向けての「攻めの施策」と

してとらえています。

●林座長

この資料を見てまとめるのは皆さん大変だったと思いました。ただいくつか抜けていると思ったのが、文化力がないように感じています。何度も申しましたが、連携なくしてこれからの地域の活性化はないです。教育から医療から漁業、金融、これらがお互いのあらゆる関連性をもってひとつのものになっていけば、その隙間にまた生まれる。連携があれば、独創的なものができると思います。

●事務局

【今後のスケジュール、委員へのお願いについての説明】

●事務局

貴重な意見ありがとうございました。

実は皆様のご意見について、その都度できるだけ事務局側で検討しておりますが、場合によっては、すでに方向が決まってやっているものや、ここには掲載できないかなと判断したものもあります。

最初に、事業内の具体的内容の例として、裏付けに基づいて事業計画に載せてありますということで内容をご説明しました。例えば、ご意見のありました道の駅からの観光バスの循環については、ごもつともなご意見なのですが、実は、道の駅に、はとバスを呼べないか、コミュニティバスをどう利用できるかなどの検討を行っております。しかし、そのことを皆様のご意見をいただくごとに再度検討すると時間が間に合わないため、大変申し訳ありませんが、省略させていただいた部分もあります。

皆さんの意見をすべて反映できるかということについては、極力、担当課のほうにフィードバックしまして、取捨選択しながら反映していきたいと考えていますので、ご理解をお願いいたします。

●林座長

全体的によくできていましたが、抽象的な感じもしました。本日の各委員のご意見なども含めて、再度検討を進めていただきたいと思います。

次回、1月に懇談会を予定していますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

以上